

私の工夫

主体的に授業に取り組む
生徒の育成を目指した
3つの実践

鏡野町立鏡野中学校

主幹教諭 水嶋 竜也



1 はじめに

「40代は少ない、いわゆるポトルネックの世代である」

岡山県で勤務する我々の世代の先生方は何度も聞いた（掛けられた）枕詞である。この言葉に続く言葉は様々だが、多くは激励の言葉だったように思う。

これまでの私の実践を振り返ると、チャレンジの連続であった。平易な言葉で言うと、ただの「新しい物好き」なのだが、振り返ってみると、道筋をつけるためには必要なことであると思う。

本稿の執筆依頼をいただいたので、私の3つの実践を紹介させていただきます。

2 STEAM教育の実践

「AIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日においては、これまでの文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められている。」（中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）令和3年1月26日）

鏡野中学校には授業力のある先生方がたくさん在籍している。先生方のスキルを結びつけたとき、1＋1≧2以上の価値が得られるのではないかと考え、令和6年3

月に防災教育を軸に社会科の教諭と私の理科でコラボレーションした。

STEAM教育とは、「各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育」であり、中学校段階での取組も有効であると考え、鏡野町くらし安全課の方々に協力を仰ぎ、町内で配布された非常時持出袋の活用を社会科、理科の両面から生徒に考えさせる授業を行った。



鏡野町非常時持出袋

授業の成果は、社会科で学んだ地域防災の知識と理科で学んだ災害のメカニズムを融合して防災グッズの活用方法を生徒が考えることができたこと、教科横断で協力して授業の準備を進めたことで、教師がお互いに知識を補完して、深め合うことができたことである。

3 鏡野町教育研修会 情報教育部会との連携

GIGAスクール構想の実現を目指し、令和5年度から鏡野町教育研修会（以下、町教研と略す）に情報教育部会が発足した。情報教育部会では、町内5小1中に勤務する情報担当の先生などで構成されていて、先生方への研修のみ

鏡野町ICT情報共有ポータルサイト



鏡野町 ICT 情報共有ポータルサイト

ならず、町内の小中学生が1人1台端末をよりよく使用できる仕組みづくりを進めている。部会の情報交換は主にGoogle Classroomを利用している。部会開催のお知らせのみならず、常時各学校で生じるICT機器に関わる疑問を情報担当の先生方で助けあうこともできる頼もしいツールである。

令和6年度の町教研のテーマは「HEAD, HEART, HANDの確かな成長をめざし、一人一人が輝く、鏡野の子を育成しよう」（サブテーマ省略）であり、これを実現するため、情報教育部会では、「授業での効果的なICTの使い方」という研修テーマを定めている。今年度は鏡野町ICT情報共有ポータルサイトの内容充実などを各学校に依頼している。具体的には学習指導案の共有を通じて他校の取組を知り、授業スキルの向上に繋げたいと考えている。

4 各種ICT機器や教育アプリの実践など

本校に勤務して今年で3年目を



ロボホン稼働中、生徒は動画撮影

迎えている。この3年間で多くのICT機器や教育アプリを活用して、授業で実践してきた。

① SHARPと連携して、教育アプリ「スタディノート」を活用した。本アプリの掲示板機能を使って、実験のまとめや意見の集約が効率的に行えている。

② 鏡野町には私が赴任する前年の令和3年度からプログラミングを学ぶために、「ロボホン」というロボットがリリースされていた。しかし、赴任当初、活用状況は芳しくなく、小学校での数件の活用にとどまっていた。ふとしたきつ

かけで私もロボホンの存在を知ることになり、理科の授業で生物の分類をクイズ形式でロボホンに出題させる簡単なプログラムを組んで生徒の知識・理解を見取ったところ、生徒はとても意欲的に授業に取り組んでいたことが印象的であった。これをきっかけに職員室内で夏休み期間の自主研修を企画し、ロボホンの活用を募ったところ、数人の教員が集まり、研修をすることができた。中でも特別支援学級の担任教諭から教室に置いて活用したいとの声上がり、英語の授業などで活用していただくことができた。

③ 県学力学習状況調査の質問紙調査にて3年連続伸びている項目がある。それは、ICT機器の活用の項目である。ほぼ毎日ICT機器を活用している生徒の割合は県平均が33%程度であるのに対し、鏡野中学校は78%に達している。逆に伸び悩んでいる項目として学習習慣の項目である。そこで、家庭学習とICTを結びつける取組として、動画を撮って授業に活用することにも注力している。定期

テストの解説動画や実験動画など、家庭学習との関連も意識している。



筆者による実験解説動画のスクリーンショット

5 おわりに

先が見越せないVUCAの時代を生きる生徒にとって明るい未来となる教育を実践したいと日々考えている。次は、ChatGPTの活用を考えている。生徒は授業でICTを活用して自主的に学び、教師はファシリテーターに徹することができることが理想である。